



健康格差：不平等な世界への挑戦

マイケル・マーモット著；野田浩夫訳者代表。— 日本評論社，2017
ISBN: 9784535558809

REVIEWER

医学部 人間健康科学科 4回生

「格差って無い方がいいけど、なんか仕方ない部分もあるよね」に立ち向かう

みなさんは「健康格差」と聞いて、何を思い浮かべますか？

難民キャンプで暮らす人々、はたまた国境なき医師団が活躍する地域に住む人々の姿でしょうか。

こうした人々と私たちの間に「健康格差」があることを疑う人はいないでしょう。

ではどうして格差は生じるのでしょうか。

…だってそこは貧しい地域で、医療資源も足りていないから！

わたしのこの稚拙な回答は、読み始めて早々論破（正確には「論破された」と感じられるには時間とページ数がかかりましたが）されます。

この本はタイトルの通り、「健康格差」についてとことん考えます。

なぜ貧しい国の平均寿命は短いのか。

健康の価値をお金に換算して考えると何が起きるのか。

社会貢献をしている人と無職の人、どちらの命を救うのが尊いのか。

この本を通して筆者のマイケル・マーモット先生が訴えるのは、SDH(健康の社会的決定要因)の存在です。世界医師会長も務めた筆者が提示するデータや事例は、「貧困」「医療資源不足」だけでは説明できない、健康格差の仕組みを見せてくれます。それと同時に、そこら中にはびこる不平等を「仕方ないもの」と容認している私たちの姿も見えてきます。新鮮さに感動したり、これまでの自分にため息が出たり、非常に面白くて痛快な体験の連続です。

498

Ma 52

医人健開架

(裏へ続きます)

⇒⇒⇒

この本は分厚めで、データや例え話（加えて筆者の高尚なジョーク）を理解するには頭を使います。でも頭を使ううちに、「仕方ないもの」にも仕方はあるのかも、ということに気がつくのです。

読み終わったら、あなたの世界の見方もちょっと変わっているかも。

是非、ぱらりとページをめくってみてください。

マーモット先生がお待ちですよ。

受理：2018-01-15